

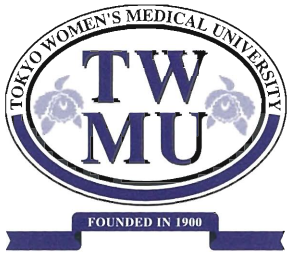


東京女子医科大学学術リポトリ
<https://twinkle.repo.nii.ac.jp>

表紙，目次，奥付等

雑誌名	東京女子医科大学雑誌
巻	87
号	1-2
発行年	2017-04-25
URL	http://hdl.handle.net/10470/00031695

doi: http://doi.org/10.24488/jtwmu.87.1-2_Toc1-2



東京女子医科大学雑誌

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

■総説

循環系の基礎と臨床

- (1) 中枢神経系の水分代謝……………澤田達男… 1- 4
- (2) 血管新生……………槍澤大樹・蒼野 仁… 5- 12

■第82回東京女子医科大学学会総会

シンポジウム「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

『都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育』の成果」Part 1

- 序文……………唐澤久美子… 13
- (2) がん看護専門看護師養成の取り組み……………飯岡由紀子… 14- 19
- (3) 小学校高学年へのがん教育
 - 帝京サマースクールについて—……………有賀悦子・佐野圭二・
 - 近藤福雄・渡邊清高・大澤岳史・朝倉比都美・笹野仲史・
 - 市川靖子・澤村成史・矢口成美・岸浪由治・江口研二… 20- 25
- (4) 都市部の3大学病院を受診するがん患者における
 - ニーズ調査（実施報告）都市型がん医療のニーズを探る
 - がん患者のサバイバー調査から見えてきたもの—……………渡邊清高・
 - 古瀬純司・林 和彦… 26- 32

■学会・研究会抄録

- 第355回東京女子医科大学学会例会（平成29年2月25日）…………… 33- 42
- 第33回吉岡弥生記念講演会（第356回東京女子医科大学学会例会）
（平成29年5月22日）…………… 43- 44
- 平成28年度東京女子医科大学医学部・基礎系教室研究発表会
（平成28年12月22日）…………… 45- 47

2017

Vol.87 No.1/2

ISSN 0040-9022

東女医大誌

J Tokyo Wom Med Univ

87巻 1・2号 平成29年4月

東京女子医科大学学会

SOCIETY OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

(TOKYO JOSHI IKADAIGAKU ZASSHI)

Volume 87 Number 1/2
April 25, 2017
ISSN 0040-9022

Society of Tokyo Women's Medical University
8-1, Kawada-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-8666 Japan
Tel: 81-3-3353-8111 (ext. 22314) E-mail: gakkai.bi@twmu.ac.jp

Reviews

Circulatory System: Basic and Clinical Research

- (1) Water Metabolism of the Central Nervous System
Tatsuo SAWADA..... 1-4
- (2) Neovascularization
Taiju UTSUGISAWA, Hitoshi KANNO..... 5-12

The 82nd Annual Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University Symposium "Promotion Plan for the Platform of Human Resource Development for Cancer by Tokyo Oncology Professionals: Practical Education of Human Resources in Urban Cancer Medical Collaboration" Part 1

Preface for Promotion Plan for the Platform of Human Resource Development for Cancer
by Tokyo Oncology Professionals: Practical Education of
Human Resources in Urban Cancer Medical Collaboration

- Kumiko KARASAWA..... 13
- (2) Examining the Curriculum for Certified Nurse Specialists in Cancer Nursing
in Tokyo Women's Medical University
Yukiko IIOKA..... 14-19
- (3) Educating Young Teenagers about Cancer at Teikyo Summer School through a Campus Visit
Etsuko ARUGA, Keiji SANO, Fukuo KONDO, Kiyotaka WATANABE,
Gakuji OSAWA, Hitomi ASAKURA, Nakashi SASANO, Yasuko ICHIKAWA,
Shigehito SAWAMURA, Narumi YAGUCHI, Yoshiharu KISHINAMI,
Kenji EGUCHI..... 20-25
- (4) Survivorship Questionnaires in Outpatients with Cancer at Three University Hospitals
in the Tokyo Metropolitan Area
Kiyotaka WATANABE, Junji FURUSE, Kazuhiko HAYASHI..... 26-32

Proceedings

- The 355th Regular Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University
(February 25, 2017)..... 33-42
- The 33rd Yoshioka Yayoi Memorial Lecture (The 356th Regular Meeting of
the Society of Tokyo Women's Medical University) (May 22, 2017)..... 43-44

東京女子医科大学学会

会 長 吉岡 俊正 学長
副会長 橋本 悦子 教授 (医学部消化器内科学)

編集担当幹事

阿部光一郎 教授 (医学部画像診断学・核医学)
青見 茂之 准教授 (医学部心臓血管外科学)
○江川 裕人 教授 (医学部消化器外科学)
淵之上昌平 准教授 (腎臓外科)
萩原 誠久 教授・講座主任 (医学部循環器内科学)
林 和彦 教授 (化学療法・緩和ケア科)
平澤 恭子 准教授 (医学部小児科学)
稻田 健 講師 (医学部精神医学)
石田 英樹 臨床教授 (医学部泌尿器科学)
○神尾 孝子 臨床教授 (医学部外科学第二)
糟谷 英俊 教授 (東医療センター脳神経外科)
木林 和彦 教授・講座主任 (医学部法医学)
北川 一夫 教授・講座主任 (医学部神経内科学)
松井 英雄 教授・講座主任 (医学部産婦人科学)
森本 聡 准教授 (医学部内科学第二)
南家 由紀 准教授 (看護学部臨床医学系内科学)
野中 学 臨床教授 (医学部耳鼻咽喉科学)
櫻井 裕之 教授・講座主任 (医学部形成外科学)
◎澤田 達男 教授 (医学部病理学第一)
篠崎 和美 講師 (医学部眼科学)
杉原 茂孝 教授 (東医療センター小児科)
▲杉下 智彦 教授・講座主任 (医学部国際環境・熱帯医学)
玉置 淳 教授・講座主任 (医学部内科学第一)
田中 淳司 教授・講座主任 (医学部血液内科学)

谷口 敦夫 教授 (膠原病リウマチ内科)
徳重 克年 教授・講座主任 (医学部消化器内科学)
△内田 啓子 教授 (学生健康管理室)
山口 直人 教授・講座主任 (医学部衛生学公衆衛生学二)

集会担当幹事

◎橋本 悦子 教授 (医学部消化器内科学)
唐澤久美子 教授・講座主任 (医学部放射線腫瘍学)
小森万希子 教授 (東医療センター麻酔科)
小國 弘量 教授 (医学部小児科学)
岡本 高宏 教授・講座主任 (医学部外科学第二)
尾崎 恭子 教授 (看護学部臨床医学系外科学)
○尾崎 眞 教授 (医学部麻酔科学)
三谷 昌平 教授・講座主任 (医学部生理学第二)
佐藤 麻子 教授 (中央検査部臨床検査科)
澤田 達男 教授 (医学部病理学第一)
▲杉下 智彦 教授・講座主任 (医学部国際環境・熱帯医学)
高村 悦子 臨床教授 (医学部眼科学)
△内田 啓子 教授 (学生健康管理室)

監事

石黒 直子 准教授 (医学部皮膚科学)
八木 淳二 教授・講座主任 (医学部微生物学免疫学)

◎幹事長 ○副幹事長 ▲会計 △庶務 ABC 順

- 植の現状と展望. 人工臓器 41 : 215-218, 2012
- 26) **Wang GL, Semenza GJ**: Purification and characterization of hypoxia-inducible factor 1. *J Biol Chem* **270**: 1230-1237, 1995
- 27) **Wang GL, Jiang B, Rue EA et al**: Hypoxia-inducible factor 1 is a basic-helix-loop-helix-PAS heterodimer regulated by cellular O₂ tension. *Proc Natl Acad Sci U S A* **92**: 5510-5514, 1995
- 28) **Akita T, Murohara T, Ikeda H et al**: Hypoxic preconditioning augments efficacy of human endothelial progenitor cells for therapeutic neovascularization. *Lab Invest* **83**: 65-73, 2003
- 29) **Kubo M, Li TS, Kamota T et al**: Increased expression of CXCR4 and integrin α M in hypoxia- preconditioned cells contributes to improved cell retention and angiogenic potency. *J Cell Physiol* **220**: 508-514, 2009
- 30) **Majmundar AJ, Wong WJ, Simon MC**: Hypoxia-inducible factors and the response to hypoxic stress. *Mol Cell* **40**: 294-309, 2010
- 31) **Lu H, Dalgard CL, Mohyeldin A et al**: Reversible inactivation of HIF-1 prolyl hydroxylases allows cell metabolism to control basal HIF-1. *J Biol Chem* **280**: 41928-41939, 2005
- 32) **Kanno H, Iribe Y, Aoki T et al**: Pyruvate Supplementation Enhances Vascular Endothelial Growth Factor Production By Bone Marrow-Derived Mononuclear Cells. *日輸血細胞治療会誌* **58**: 26-32, 2012
- 33) **Murohara T, Ikeda H, Duan J et al**: Transplanted cord blood-derived endothelial precursor cells augment postnatal neovascularization. *J Clin Invest* **105**: 1527-1536, 2000
- 34) **Ziegelhoeffer T, Fernandez B, Kostin S et al**: Bone marrow-derived cells do not incorporate into the adult growing vasculature. *Circ Res* **94**: 230-238, 2004

循環系の基礎と臨床—掲載予定—

執筆者	所属	テーマ	掲載号
澤田達男	病理学 (第一)	1. 脳の微小循環	87 (1・2)
槍澤大樹	輸血・細胞プロセッシング科	2. 血管新生	87 (1・2)
森本 聡	高血圧・内分泌内科	3. 高血圧	87 (3)
瀧田守親	薬理学	4. 転移	87 (4)
江崎太一	解剖学・発生生物学	5. リンパ管発生	87 (5)
小川哲也	腎臓内科	6. 動脈硬化 (透析も含めた腎血管)	87 (6)

第82回東京女子医科大学学会総会
シンポジウム「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
『都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育』の成果」Part 1

日 時：平成28年9月24日（土）13：30～15：40

会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

共 催：文部科学省事業がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

基調講演

座長（東京女子医科大学医学部放射線腫瘍学教授・講座主任）唐澤久美子

1. がん専門放射線治療技師・医学物理士養成の取り組み（駒澤大学医療健康科学研究科教授）吉川宏起
2. がん看護専門看護師養成の取り組み（東京女子医科大学看護学部成人看護学教授）飯岡由紀子
3. 小学校高学年へのがん教育—帝京サマースクールについて—（帝京大学緩和医療学講座教授）有賀悦子
4. 都市型がん医療のニーズを探る—がん患者のサバイバー調査から見てきたもの—
（帝京大学内科学講座腫瘍内科准教授）渡邊清高
（杏林大学腫瘍内科学講座教授）古瀬純司

序 文

（東京女子医科大学医学部放射線腫瘍学教授・講座主任）唐澤久美子

がんはわが国の死因の第1位で国民の半数以上が罹患する疾病であり、がん医療に携わる専門的な知識・技能を有する医師その他の医療従事者の養成が急務である。「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」は文部科学省が、がん医療従事者の養成を支援するプランで、複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための教育拠点を構築することを目的として、平成24年度から実施されており、全国で15拠点が選定されている。東京女子医科大学は、帝京大学、杏林大学、駒澤大学との連携で、「Tokyo Oncology Professional 都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育」として教育拠点到選されている。

東京都では、がん患者の生活環境や要望は大きく異なる上に急速に高齢化が進行し、急性期から在宅医療までの地域がん医療連携の効率化が急務であるが、地域医療のコーディネート能力のある医師や看護師は極めて不足しているのが現状である。4大学

は今までもがん医療に携わる医師、看護師、診療放射線技師、医学物理士を養成してきたが、本事業では4大学の総力を連携し、魅力的かつ実践的な教育プログラムを連携して行い、患者・家族の視点に立ちながら、質・量ともに多様化する都市型がん地域治療を担うことのできる次世代のがん医療人リーダーの養成を目指している。

今年は、その最終年度であり、皆様にわれわれの取り組みの内容をご説明し、成果をご報告させていただきたいと考えた。多くの取り組みがある中で、本シンポジウムでは、駒澤大学でのがん専門放射線治療技師・医学物理士養成の取り組み、東京女子医科大学でのがん看護専門看護師養成の取り組み、帝京大学での小学校高学年へのがん教育の取り組み、連携3大学医学研究科の学生と教員によって行われた都市型がん医療のニーズを探るがん患者のサバイバー調査のアンケート結果をご紹介した。

本教育プランががん患者さんにご家族にとって有用であることを願っている。

Kumiko KARASAWA [Department of Radiation Oncology, School of Medicine, Tokyo Women's Medical University]:
Preface for Promotion Plan for the Platform of Human Resource Development for Cancer by Tokyo Oncology Professionals:
Practical Education of Human Resources in Urban Cancer Medical Collaboration

第355回東京女子医科大学学会例会

日 時：平成29年2月25日（土）13：00～18：10

会 場：総合外来センター5階 大会議室

開会の辞
挨拶司会（幹事）尾崎 眞
（会長）吉岡俊正

平成28年度研究奨励賞授与式 13：03～13：15

選考経過報告

（学長）吉岡俊正

山川寿子研究奨励賞（第29回）

1. 日本人2型糖尿病患者の個別化治療におけるインスリン療法に関する研究

（内科学（第三）助教）大屋純子

佐竹高子研究奨励賞（第25回）

1. ヘルパー T 細胞の分化を運命づける樹状細胞の機能分子の探索

（微生物学免疫学 助教）大森深雪

中山恒明研究奨励賞（第3回）

1. 転移前ニッチ形成を標的とした新規がん治療への展開

（薬理学 助教）出口敦子

2. 再生医療のための移植用心筋組織内残存未分化 iPS 細胞除去手法開発

（先端生命医科学研究所 准教授）松浦勝久

平成27年度受賞者研究発表 13：15～14：30

山川寿子研究奨励賞（第28回）

座長（幹事）尾崎 眞

1. ヒト iPS 細胞由来甲状腺細胞による再生医療を目指して

（先端生命医科学研究所）荒内 歩

2. カドミウムによる肺癌の悪性転化機構の解明

（衛生学公衆衛生学（一））藤木恒太

佐竹高子研究奨励賞（第24回）

座長（幹事）尾崎 眞

1. 肥満合併2型糖尿病に関する研究：DIACET データから

（内科学（第三））中神朋子

中山恒明研究奨励賞（第2回）

座長（幹事）尾崎 眞

1. 肝細胞癌に対する安全な高難度肝臓手術の確立

（消化器外科学）有泉俊一・小寺由人・高橋 豊・大森亜紀子・

山下信吾・根本 慧・片桐 聡・江川裕人・山本雅一

2. ヒト糸球体内皮細胞におけるカベオラを介すアルブミンの新通過経路と排出経路

（内科学（第四））森山能仁・唐澤一徳・佐々木佳代・内田啓子・新田孝作

<休 憩>

第11回研修医症例報告会 14：40～18：10

〔○発表者, ◎指導医〕

開始の挨拶

（卒後臨床研修センター長）川名正敏

Block 1 14:45~15:35 座長（消化器・一般外科）小寺由人・（小児科）平澤恭子

1. 重症筋無力症と Isaacs 症候群に合併した後天性血友病 A
（¹卒後臨床研修センター，²神経内科，³血液内科）○金野 史¹・◎武田貴裕²・
鈴木美紀²・清水優子²・飯嶋 睦²・田中淳司³・北川一夫²
2. 診断が困難であった関節リウマチの 1 例
（東医療センター¹卒後臨床センター，²内科）○荒井誠大¹・
◎高木香恵²・小川哲也²・佐倉 宏²
3. 肺腺癌化学療法中に皮膚転移と小腸転移をきたし小腸穿孔を起こした 1 例
（¹卒後臨床研修センター，²内科学（第一），³病理診断科，⁴皮膚科，⁵外科学（第二））○土屋海士郎¹・
◎有村 健²・山本智子³・武山 廉³・多賀谷悦子²・近藤光子²・
川島 眞⁴・岡本高宏⁵・長嶋洋治³・玉置 淳²
4. 上行結腸 angioectasia からの出血を同定し得た慢性腎不全合併 2 型糖尿病の 1 例
（卒後臨床研修センター，²糖尿病センター内科）○清水美佳¹・
◎吉田宣子²・花井 豪²・内潟安子²
5. 脳幹型 PRES，血栓性微小血管障害症を呈した悪性高血圧の 1 例
（東医療センター¹卒後臨床研修センター，²内科）○板倉卓司¹・
小川哲也²・樋口千恵子²・◎興野 藍²・佐倉 宏²

Block 2 15:35~16:15 座長（皮膚科）石黒直子・（腎臓内科）井野文美

6. 全身麻酔中にアナフィラキシー様反応を引き起こした 1 例
（東医療センター¹卒後臨床研修センター，²麻酔科，³耳鼻咽喉科）○長田宜子¹・
◎市川順子²・丸渕貴仁²・貞安 令³・西山圭子²・◎小森万希子²
7. 劇症型心筋炎を 2 度発症し救命し得た 1 例
（東医療センター¹卒後臨床研修センター，²内科，³心臓血管診療部，⁴病理診断科）○小泉元彦¹・
松居一悠²・◎中嶋 俊²・中岡隆志²・河村俊治⁴・佐倉 宏²・布田伸一³
8. 経皮的卵円孔閉鎖術により著明な改善が得られた platypnea-orthodeoxia 症候群の 1 例
（¹卒後臨床研修センター，²循環器内科，³循環器小児科）○生形 盟¹・
◎小暮智仁²・杉山 央³・関口治樹²・鈴木 敦²・芹澤直紀²・
鈴木 豪²・志賀 剛²・朴 仁三³・萩原誠久²
9. 抗酸菌による繰り返すペースメーカー感染の加療中に血小板減少症を併発した 1 例
（卒後臨床研修センター，²循環器内科，³心臓血管外科，⁴感染症科，⁵血液内科）○大川拓也¹・
◎菊池規子²・庄田守男²・谷野紗恵²・鈴木 敦²・芹澤直紀²・志賀 剛²・
萩原誠久²・斎藤 聡³・山崎健二³・菊池 賢⁴・篠原明仁⁵・田中淳司⁵

< 休 憩 >

Block 3 16:30~17:20 座長（麻酔科）深田智子・（救命救急センター）武田宗和

10. Thyroid-like follicular renal cell carcinoma (TLF-RCC) の 1 例
（¹卒後臨床研修センター，²病理診断科，³泌尿器科）○木村美和¹・
山本智子²・高木敏男³・近藤恒徳³・◎長嶋洋治³
11. 腎腫瘍の画像を呈した右傍腎盂に発生した後腹膜神経鞘腫と多発神経鞘腫の既往から Schwannomatosis
と診断した症例
（¹卒後臨床研修センター，²泌尿器科）○越智満久¹・◎近藤恒徳²・田邊一成²
12. 過剰腺に生じた縦隔副甲状腺腫の 1 例
（¹卒後臨床研修センター，²乳腺・内分泌外科，³呼吸器外科，⁴病理診断科）橋口浩実¹・徳光宏紀²・

前田英之³・神崎正人³・長嶋洋治⁴・宇都健太⁴・◎岡本高宏²

13. 外科手術に至った高齢発症の憩室性大腸炎が疑われた1例

(¹卒後臨床研修センター, ²消化器内科, ³消化器外科) ○高鹿美姫¹・任芝 杏¹・柏木宏幸²・
伊藤亜由美²・米沢麻利亚²・大森鉄平²・◎高山敬子²・飯塚文瑛²・
中村真一²・徳重克年²・大木岳志³・井上雄志³・山本雅一³

14. 進行胃癌に対し審査腹腔鏡が有用であった1例

(¹卒後臨床研修センター, ²消化器外科) ○藤川秀爾¹・◎山田卓司²・
谷口清章²・瀬下明良²・三宅邦智²・天野久仁彦²・山本雅一²

Block 4 17:20~18:00

座長 (血液内科) 吉永健太郎・(神経内科) 白井優香

15. 小児各科の協力にてターミナルケアを行った Duchenne 型筋ジストロフィーの成人男性

(¹卒後臨床研修センター, ²小児科, ³循環器小児科, ⁴腎臓小児科) ○新井里子¹・
松丸重人²・佐藤孝俊²・七字美延²・石黒久美子²・村上てるみ²・立川恵美子²・
工藤恵道³・稲井 慶³・石塚喜世伸⁴・◎石垣景子²・永田 智²

16. 未熟児網膜症スクリーニング時に発見された先天網膜分離症の1例

(¹卒後臨床研修センター, ²眼科, ³新生児医学科) ○輪島 京¹・
◎丸子一朗²・古泉英貴²・飯田知弘²・内山 温³・楠田 聡³

17. 胆汁性嘔吐, 心筋炎を呈し, 診断に難渋した好酸球増多症候群の11歳女子例

(¹卒後臨床研修センター, ²小児科, ³腎臓小児科) ○山村恭一¹・
◎鍋木陽一郎²・千葉幸英²・鶴田敏久²・服部元史³・永田 智²

18. てんかんに似た発作性症状を呈した生体腎移植後のナルコレプシーの1女子例

(¹卒後臨床研修センター, ²小児科, ³腎臓小児科) ○岡橋昌己¹・◎伊藤 進²・
柳下友映²・大谷ゆい²・衛藤 薫²・竹下暁子²・平澤恭子²・
小国弘量²・石塚喜世伸³・服部元史³・永田 智²

初期臨床研修現況報告

(循環器内科) 志賀 剛

ベストプレゼンテーション賞表彰式

閉会の辞

司会 (幹事) 小森万希子

【平成 27 年度山川寿子研究奨励賞受賞者研究発表】

1. ヒト iPS 細胞由来甲状腺細胞による再生医療を目指して

(先端生命医科学研究所) 荒内 歩

原発性, 自己免疫性, 医原性など様々な病因に由来する甲状腺機能低下症に対し, 甲状腺ホルモン補充療法を必要とする患者数は少なくない。しかし, 内服継続による QOL の低下や生理的機能との齟齬などの問題点が挙げられる。我々は, 以前, 細胞シート工学を用いて培養した甲状腺細胞シートにより, 甲状腺機能低下症モデルの甲状腺機能を回復することに成功した。本研究では, 細胞ソースとしての甲状腺細胞の獲得という点に着目し, ヒト iPS 細胞の分化誘導により回収した甲状腺濾胞上皮細胞から, 甲状腺組織を再生することを目標とした。

まず Activin A を主とした刺激により, definitive endoderm へ誘導し, 内胚葉分化マーカーである sox17・FOXA2 について, RT-PCR, フローサイトメトリー, 免疫染色により解析した。いずれの遺伝子発現についても誘導後, 有意に上昇しているのを確認することができ, 共陽性細胞が増加しているのを認めることができた。その後, TSH を始めとする種々の因子を添加した培地にて培養を継続し, 甲状腺濾胞上皮細胞への分化に必須と考えられている, 転写因子 Pax8・Nkx2-1, さらに, 甲状腺に特異的な, Na-I トランスポーターや TSH レセプター, サイログロブリンについて, 遺伝子・タンパク質の発現を確認することができた。また, 培養上清中に甲状腺ホルモンを同定することができた。これらの結果は, ヒト iPS 細胞由来甲状腺細胞を用いた組織再生を実現し, 甲状腺機能低下症の新たな治療となる可能性を示し

**第33回吉岡弥生記念講演会
(第356回東京女子医科大学学会例会)**

日 時：平成29年5月22日（月）13：00～16：00

会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

対 象：本会会員，本学学生・教職員，一般

（司会）幹事 尾崎 眞

会長 吉岡俊正

挨 拶

平成29年度（第56回）吉岡弥生研究奨励賞授与式 13：00～13：15

選考経過報告

理事長・学長 吉岡俊正

妊娠糖尿病における分娩後耐糖能異常のリスク因子の検討

内科学（第三）柳澤慶香

平成28年度（第55回）吉岡弥生研究奨励賞受賞者研究発表 13：15～14：15

（座長）副会長 橋本悦子

1. 抗アクアポリン4抗体陽性視神経脊髄炎関連疾患患者の妊娠に関連した再発リスクの検討

¹神経内科，²東北大学神経内科，³八千代医療センター神経内科，⁴順天堂大学神経内科，⁵総合研究所研究部

清水優子¹・藤原一男²・大橋高志³・中島一郎²・横山和正⁴・

池口亮太郎¹・高橋利幸²・三須建郎²・清水 悟⁵・青木正志²・北川一夫¹

2. *Caenorhabditis elegans* における cdc-42 の機能解析

生理学（第二）上原朋子

3. マウスにおける感染による声帯周囲の炎症の検討について

¹麻酔科学，²病理学（第二），³感染対策部感染症科，⁴神奈川県立こども医療センター

虻川有香子¹・小田秀明²・菊池 賢³・広木公一⁴・尾崎 眞¹

第33回吉岡弥生記念講演 14：30～16：00

挨 拶

理事長・学長 吉岡俊正

（座長）会長 吉岡俊正

弥生先生を語る

本学名誉教授，昭和36年卒業生 黒島淳子先生

女性医師教育者としての吉岡彌生

新潟大学人文社会・教育科学系 教授 創生学部担当 渡邊洋子先生

1. 抗アクアポリン4抗体陽性視神経脊髄炎関連疾患患者の妊娠に関連した再発リスクの検討

（¹神経内科，²東北大学神経内科，³八千代医療センター神経内科，⁴順天堂大学神経内科，⁵総合研究所研究部）

清水優子¹・藤原一男²・

大橋高志³・中島一郎²・横山和正⁴・

池口亮太郎¹・高橋利幸²・三須建郎²・

清水 悟⁴・青木正志²・北川一夫¹

抗アクアポリン4（aquaporin-4：AQP4）抗体陽性視神経脊髄炎関連疾患（neuromyelitis optica spectrum disorder：NMOSD）では妊娠・出産に伴い再発が多くなることが報告されている。今回我々は日本人NMOSD患

者の妊娠に関連した再発を調査し，再発の危険因子を検討した。対象は抗AQP4抗体陽性の日本人女性NMOSD139例のうち，経過を観察しえた114例。そのうち経産婦は47例で全妊娠数56。妊娠前・妊娠中・出産後1年以内の年間再発率（annual relapse rate：ARR）を検討した。その結果，47例の経産婦NMOSDのうち22例（46.8%）は，妊娠・出産に伴う再発をきたしていた。ARRは妊娠前（ 0.57 ± 1.16 ）と比較し，出産後3か月以内（ 1.80 ± 2.04 ）で有意に高値であった（ $p=0.0043$ ）。多発性硬化症（multiple sclerosis：MS）のような妊娠中の有意なARRの低下はなかった。妊娠前にNMOSDと確定診断されていた経産婦11例のうち妊娠・出産に伴う

平成 28 年度東京女子医科大学医学部・基礎系教室研究発表会

日 時：平成 28 年 12 月 22 日（木）13：00～17：00

場 所：東京女子医科大学 臨床講堂 I

主 催：基礎医学系教授会

1. BCL-2 ファミリーを標的とした小細胞肺癌治療 (病理学 (第二)) 山内 茜
2. Yeast Two-Hybrid を用いた相互作用分子の探索 (薬理学) 大森 勉
3. 網膜傷害後の Müller グリアの細胞周期進入と DNA 損傷応答 (解剖学) 蔭池かおり
4. 内科共通クラークシップ導入とその評価の検討 (医学教育学) 村崎かがり
5. わが国における青年の携帯電話利用状況と脳腫瘍罹患率との関連 (衛生学公衆衛生学 (二)) 佐藤康仁
6. 法医学での DNA 解析による個人識別に利用可能な SNPs の探索 (法医学) 町田光世
7. 接触型シグナル伝達のもたらす位置情報が心外膜・冠動脈前駆体の心臓への移動を制御する (生物学) 石井泰雄
8. 侵害刺激強度による逃避行動の最適化とその神経メカニズム (生理学 (第二)) 若林沙耶香

1. BCL-2 ファミリーを標的とした小細胞肺癌治療

Tutomu OMORI

(病理学 (第二)) 山内 茜

小細胞肺癌は肺癌全体の約 15~20% を占める非常に悪性度の高い癌である。化学療法や放射線療法に対する感受性が高いが、多くの場合再発が問題となっており、新たな治療法の開発が待たれている。興味深いことに、小細胞肺癌はアポトーシス抑制因子 BCL-2/BCL-X_L の阻害薬 ABT-263 に対して高い感受性を示すことが報告され、その臨床応用に期待が集まった。しかしながら、ABT-263 の臨床試験の結果はその有効性を支持するものではなく、併用治療の必要性を示すものであった。本研究では、ABT-263 耐性の克服を目指し、ABT-263 のアポトーシス活性を促進可能な薬剤のスクリーニングを行った。1069 種類の薬剤を含む 2 種類の薬剤ライブラリーを用いたスクリーニングの結果、doxorubicin を含むアントラサイクリン系薬剤および、dinaciclib を含む CDK 阻害薬を同定した。実際に、doxorubicin および dinaciclib は、ABT-263 との相乗作用により、ABT-263 耐性を示す複数の小細胞肺癌細胞株のアポトーシスを効率的に誘導した。それらの薬剤の主要な作用標的は、ABT-263 によって阻害されない、アポトーシス抑制因子 MCL-1 であり、その発現を転写レベルで抑制することが判明した。本発表では BCL-2 ファミリーを標的とした新たな小細胞肺癌の治療戦略について議論したい。

The Yeast Two-Hybrid (Y2H) system is one of the methods for analyzing protein-protein interactions. The protein of interest is called as the bait. The fusion protein, such as hunted unknown protein, is called as the prey. If the bait and the prey have intermolecular interaction, they transcript several reporter genes and result in growth the yeast on the selective mediums. Based upon those results, we identify positive, negative, and false-positive clones. While the Y2H can successfully recognize true protein-protein bindings, it also hunts a number of false-positives. The distinction between positives and false-positives has been the toughest challenge in this system. Thanks to individual researchers and many manufactures, protocols and commercial products are easily available nowadays. Not only following those protocols, but we simultaneously have tried some verification and interlaced various methods. Those processes could be miscellaneous and sometimes lead the screenings to devastating end. However, a major reason we keep try screening is that the Y2H system is a mixture of good and bad and there is always a possibility to find a new, unknown binding partner. Although the system is not perfect, we have used this strategy as to reveal the molecular mechanisms of cancer metastasis and so far. Several papers are already published and some are still working. Considering a time and effort, the Y2H system may be difficult as a

2. Searching for interactive molecules using the Yeast Two-Hybrid system

(Department of Pharmacology)

雑 報

○編集担当幹事会

日時 平成 28 年 11 月 7 日 (月) 17:30~
場所 総合外来センター 1 階 セミナー室
議題 東京女子医科大学雑誌 87 巻 1 号査読結果審議, 第 87 巻 (平成 29 年発行) 掲載シリーズ「循環系の基礎と臨床」, 今後の本誌発行形態～英文誌創刊とそれに伴う混合誌から和文誌への変換～, その他について

日時 平成 29 年 1 月 10 日 (火) 17:30~
場所 総合外来センター 1 階 セミナー室
議題 東京女子医科大学雑誌 87 巻 2 号査読結果審議, 第 87 巻 (平成 29 年発行) 掲載シリーズ「循環系の基礎と臨床」, 今後の本誌発行形態～英文誌創刊とそれに伴う混合誌から和文誌への変換～, 都内三大学医学会間における査読協力, その他について

○集会担当幹事会

日時 平成 28 年 12 月 20 日 (火) 17:30~
場所 E 会議室
議題 第 82 回総会報告, 第 355 回例会, 第 33 回吉岡弥生記念講演会 (第 356 回例会), 平成 29 年評議員会, 第 83 回総会, その他について

○第 355 回例会

日時 平成 29 年 2 月 25 日 (土) 13:00~18:00
場所 総合外来センター 5 階 大会議室
次第 平成 28 年度佐竹高子研究奨励賞・山川寿子研究奨励賞・中山恒明研究奨励賞授与式, 平成 27 年度佐竹高子研究奨励賞・山川寿子研究奨励賞受賞者研究発表, 第 11 回研修医症例報告会

編集後記

この東京女子医科大学雑誌の目的は、もちろん本学

関係者による医学研究を推進することです。しかし近年、若い医師の研究指向が低下しており、意識も内向きとなり留学を希望する人も減っている状況であり、リサーチマインドの涵養、グローバルな人間関係の育成の必要性を痛感しております。それでは古参医師はどのようなのでしょうか？人は、年齢を重ね職場でさまざまな体験を積むことによって、いわゆるキャリアを形成してゆきます。しかしそれに甘んじていると、知らず知らずのうちに心が萎えてゆき、どんな出来事に遭遇しても新鮮な驚きや目を見張るといふことがなくなり、肅然と姿勢を正す機会を失うのです。わが国では 60 歳前にして第一線での研究を止めてしまう学者の例に事欠かないのが現状です。しかし、欧米ではいかに大学者であっても、管理職に格上げされたのを理由に研究を断念することなどありえません。学者は役者同様、命のある限り舞台に立つのを本望としなければならぬと思っております。

研究にはたゆまぬ努力は当然ですが直感もまた大事です。直感を養うためには、自分の専門分野と離れたところにもうひとつの好奇心を持つのもよいでしょう。数学と音楽、物理と絵画、化学と天文学といった具合に、異なった場所に二つのアンテナを立てておくと、その間で知的放電が起きます。建築家は、海辺にころがっている貝殻から建築のモチーフを着想するだろうし、魚の形から流体力学のヒントが得られるかもしれない。そうして二つのアンテナを立てたら、頭をできるだけ開いた状態にしておき、アンテナにかかった刺激がここぞという時に増幅されるようにしておくのです。いまこうしている間にも、同じようなアイデアを持っている人間が世の中に 10 人はいるかもしれません。そしていったん方向性が決まったら、そこから先は早い者勝ちです。そこにはヒリヒリするような興奮が待っているでしょう！

(2017. 3, 玉置 淳)

編集担当幹事：阿部光一郎	青見茂之	江川裕人○	舘之上昌平	萩原誠久	林 和彦
平澤恭子	稲田 健	石田英樹	神尾孝子○	糟谷英俊	木林和彦
北川一夫	松井英雄	森本 聡	南家由紀	野中 学	櫻井裕之
澤田達男◎	篠崎和美	杉原茂孝	杉下智彦	玉置 淳	田中淳司
谷口敦夫	徳重克年	内田啓子	山口直人		

(ABC 順, ◎幹事長, ○副幹事長)

東京女子医科大学雑誌 87 巻 1・2 号：平成 29 年 4 月 25 日発行 (偶数月発行)

Journal of Tokyo Women's Medical University Vol. 87 No. 1/2: April 25, 2017

発行者：吉岡俊正

発行所：東京女子医科大学学会

事務局：〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1 東京女子医科大学 中央校舎 3 階 学会室

Tel & Fax：03-5269-7403/E-mail：gakkai.bi@twmu.ac.jp

購読料：年会費 6,000 円に含む。1 冊定価 1,000 円 (税・送料共)

振込先：(銀行振込) 東京女子医科大学学会 会長 吉岡俊正

三菱東京 UFJ 銀行 東京女子医大出張所 普通 3643723

(郵便振替) 東京女子医科大学学会 00150-4-4342

印刷：株式会社杏林舎 〒114-0024 東京都北区西ヶ原 3-46-10 Tel：03-3910-4311/Fax：03-3949-0230

* 本誌の内容を無断で複写・複製すると、著作権・出版権の侵害になりますのでご注意ください。

東京女子医科大学学会会則

昭和 56 年制定 平成 24 年改訂

総 則

- 第 1 条 東京女子医科大学学会（以下、本会という）を学校法人東京女子医科大学（以下、本学という）に設ける。
- 第 2 条 本会は医学・看護学および医療の進歩向上を図ることを目的とし、そのための諸活動を行う。

会 員

- 第 3 条 本会の会員は、本会の目的に賛同した者で、会長の承認を得るものとする。但し、本学に常勤する准講師以上の教職員は入会するものとする。
- 第 4 条 本会は、正会員・名誉会員・準会員・特別会員によって構成される。

役 員

- 第 5 条 本会に次の役員を置く。会長 1 名、副会長 1 名、幹事若干名、監事 2 名、第 5 項に該当する評議員。
- 会長は学長とし、本会の運営を総理する。
 - 副会長は幹事の中から会長が指名する。副会長は会長を補佐し、会長が職務遂行に支障のある時はその代行を務める。
 - 幹事および監事は評議員の中から会長が指名する。任期は 2 年とし、再任を妨げない。
 - 評議員は准教授以上の本会正会員で役員の推薦を得て総会で承認を受けた者とし、本会の運営に寄与する。任期は 4 年とし、再任を妨げない。

集 会

- 第 6 条 本会の集会は総会、例会とする。
- 総会を年 1 回開催し、庶務、会計、監査報告ならびに学術講演を行う。
 - 例会を年 2 回開催し、学術に関する講演討論等を行う。

評議員会・幹事会

- 第 7 条 評議員会を年 1 回以上開催する。
- 幹事は職務別に担当を決め、集会・編集・庶務・会計をそれぞれ担当し、集会・編集に関しては幹事会を月 1 回開催する。

分 科 会

- 第 8 条 本会に分科会を置くことができる。

機関誌発行

- 第 9 条 本会の機関誌を『東京女子医科大学雑誌』と称し、原則として隔月（偶数月）の発行とし本会会員に配布する。

経 費

- 第 10 条 経費は会費、入会金、寄付金、その他の収入をこれに充てる。
- 第 11 条 正会員は会費を納入する。但し、名誉会員・準会員はこれを免除する。

事 務

- 第 12 条 本会の事務室を本学 学会室に置く。

細 則

- 第 13 条 本会で講演または討論する者は本会会員に限る。但し、会長の許可を得た者はその限りではない。
- 第 14 条 会員は自己の業績を機関誌に投稿することができる。

附 則

- 本会会則は評議員会の議決と総会の承認を得て変更することができる。
- 会則の施行に必要な内規を別に定める。
- この会則は、平成 24 年 10 月 1 日より施行する。

東京女子医科大学学会内規

昭和 60 年制定 平成 27 年改訂

第 1 条 会 員

1. 名誉会員
本学名誉教授および本会に対して特別な功勞のある者で評議員の推薦を受け、会長の承認を得た者とし、会費納入を免除する。正会員と同等の資格を有するが、本会の役員には就任できない。
2. 準会員
本学学生、初期臨床研修医は準会員となり、会費納入を免除する。申し出のあった者のみに機関誌を配布する。
3. 特別会員
東京女子医科大学後援会特別会員のうち、本会への入会を希望した者とする。

第 2 条 入会および退会

1. 入会
 - 1) 所定の入会申込書を学会室へ提出する。
 - 2) 年会費は前納制とし、郵便振替または銀行振込で納入する。賞与対象者については、入会後の会費は下半期の賞与から自動引き落としとする。
2. 退会・休会
 - 1) 退会・休会は、その旨を書面で学会室まで申し出る。
 - 2) 休会は海外留学の場合に限り認める。期間は 3 年を限度として、その間の会費を免除する。
 - 3) 12 月末までに次年会費未納で退会届けのない場合は会員とみなし機関誌を配布し、会費を請求する。2 年滞納した場合は自然退会とする。自然退会者が再入会する場合は未納分会費を納入する。

第 3 条 集 会

1. 総会
 - 1) 年 1 回、9 月に行う。
 - 2) 総会では庶務、会計、監査報告を行い、評議員会から提出された事項を審議し、承認を得る。
 - 3) 吉岡博人記念総合医学研究奨励賞授与式と受賞グループの研究発表を行う。他に学術講演等を行う。
2. 例会
 - 1) 年 2 回、5 月、2 月に行う。
 - 2) 5 月は吉岡弥生記念講演会と称し、原則として吉岡弥生学頭の命日に当たる 5 月 22 日に開催し、吉岡弥生研究奨励賞授与式と前年度受賞者の研究発表、吉岡弥生記念講演を行う。吉岡弥生記念講演については第 3 項に定める。
 - 3) 2 月は山川寿子研究奨励賞、佐竹高子研究奨励賞および中山恒明研究奨励賞授与式と前年度受賞者の研究発表、一般演題、その他の発表を行う。
3. 吉岡弥生記念講演会
 - 1) 吉岡弥生学頭の建学の精神を称え、後世に継承するために行う。
 - 2) 講師は医学関係に限らず、広く文化、芸術、学術全般にわたって活躍している原則として女性講師を招聘する。

第 4 条 評議員会・幹事会

1. 評議員会
年 1 回以上の評議員会では、庶務・会計・監査報告、会則の変更、新評議員の推薦等の学会運営に関する重要な事項を審議する。
2. 幹事会
 - 1) 集会担当幹事 若干名、編集担当幹事 若干名、庶務担当幹事 2 名、会計担当幹事 1 名、監事 2 名。
 - 2) 集会・編集担当幹事の各々に幹事長、副幹事長を置く。幹事長は各幹事会を主催し、月 1 回幹事会を開き必要事項を討議する。副幹事長は幹事長を補佐し、幹事長が職務遂行に支障のある時はこれを代行する。
 - 3) 集会担当幹事の職務
会則第 7 条に則り、総会、例会、評議員会等の運営に関する一切の業務を担当する。
 - 4) 編集担当幹事の職務
会則第 9 条に則り機関誌の編集方針および投稿規定を定め、投稿論文の査読、採否の検討等の業務を担当する。

第 5 条 機関誌発行

1. 機関誌を原則として隔月（偶数月）の発行とする。
2. 機関誌は依頼により臨時に増刊することができる。但し、退職記念特集を優先し、費用は依頼者の全額負担とする。

第 6 条 分科会

1. 分科会は、本会に所定の認定依頼状を提出し、会長の承認を必要とする。
2. 分科会は、広く学内各分野に共通した特定の課題を中心に、定期的に学術講演、研究発表を行う。
3. 抄録を機関誌に掲載することができる。

第 7 条 附 則

1. この内規は集会担当幹事会の議決により会長の承認を得て変更することができる。
2. この内規は、平成 27 年 10 月 1 日より施行する。

東京女子医科大学雑誌投稿規定

(平成 28 年 7 月改訂)

- 1. 投稿資格:** 投稿は共著者も含め本会会員に限る。ただし、本学に籍のない共著者は会員であるかを問わない。また、準会員のみでは投稿できない。
- 2. 原稿種類:**
 - 1) 投稿原稿は、原著、総説、報告、抄録、などとする。
 - 2) 依頼原稿は、編集担当幹事会の依頼による総説で、その著者は本会会員に限定しない。掲載料ならびに別刷 50 部までを無料とする。
 - 3) 抄録は、編集担当幹事会が必要と認めた学術集会の抄録は無料で、その他に関するものは有料で掲載することができる。本会が認定した分科会の場合は別刷り 2 頁まで無料とする。
 - 4) いずれも未発表のものに限る。ただし例外として、他誌に発表されたものについて、一定の要件を満たし、編集担当幹事会が認めた場合は二次出版 (secondary publication) を認める。要件はホームページ「二次出版に関するお知らせ」参照のこと。
- 3. 倫理:** 平成 17 年 4 月 1 日に施行された個人情報保護法を遵守する。人を対象とした論文は、東京女子医科大学倫理委員会規程ならびに遺伝子解析研究に関する倫理審査委員会規程に則って行われた研究であり、また動物を用いた研究は東京女子医科大学動物実験規程を遵守して行われた研究でなければならない。審査承認を得た場合は、論文内に承認番号などを記載すること。なお、本学以外で行われた研究の場合は、これに準ずるものとする。
- 4. 著作権・版權:** 本誌に採用された場合、著作権は本学会に委譲され、版權は本学会に帰属する。論文の一部もしくは全部を転載するときは、前もって編集担当幹事会の承認を得なければならない。
- 5. 料金:** 掲載料は、和英論文とも刷り原稿・総説は 4 頁、報告は 2 頁まで無料、超過 1 頁につき 5,000 円とする。別刷は 50 部単位で表紙に明記し、実費とする。
- 6. 投稿期日:** 随時受け付けるが、偶数月 7 日を締切とする。
- 7. 発行日:** 年 6 回偶数月 25 日とする。
- 8. 原稿提出:** 紙原稿 3 部、原稿の電子データ (筆頭著者名を明記した CD など)、投稿申込書、チェックシートを提出する。英文論文は英文校閲証明書も提出する。投稿申込書は教授・講座主任または指導者の承認、共著者の同意、著作権の委譲に関して証明したもの。
- 9. 論文査読:** 受付された論文は、編集担当幹事長が決定した査読者によって査読・審査される。査読者は、学位申請予定論文 3 名、そのほか 2 名とする。なお、査読者に関わる情報は公表しない。
- 10. 採否・掲載順:** 原稿の採否、掲載順は編集担当幹事会において決定する。受理した原稿は原則として返却しない。
- 11. 校正:** 初校・再校とも著者校正を原則とする。大幅な改変は認めない。
- 12. 臨時増刊:** 依頼により臨時に特別号を発行することができる。費用は依頼者の全額負担とする。
- 13. 原稿の書き方:**
 - 1) **書式:** 原稿は A4 判に横書きとし、上下左右余白・行間を適宜とり、本文 1 頁目に文字数×行数の設定を明記する。
 - 2) **用語・単位:** 当用漢字、現代かなづかい、半角アラビア数字を用いる。専門用語は学会で統一されたものを用い、略語は初出時に正式用語またはスペルを記載する。度量衡の単位、記号は国際単位系 (SI) を原則とする。数字と単位の間は、℃ と % を除き、1 スペースあける。
 - 3) **原稿上限:** 原著・総説は刷り原稿 10 頁 (図表含む) 程度、図表 10 点程度とする。報告は刷り原稿 6 頁 (図表含む) 程度、図表 5~6 点程度とする。
 - 4) **原稿構成:** 原則として、①表紙、②本文 (緒言、対象および方法、結果、考察、結論、謝辞、利益相反、文献)、③図の表題と説明、④図、⑤表、⑥英文要旨、⑦和文要旨、の順とする。
 - 5) **表紙:** 表題、所属、著者氏名 (フリガナ)、英文表題、ローマ字著者名 (名・姓の順、姓は大文字)、英文所属、著者連絡先 (氏名、住所、E-mail address) を記載する。
 - 6) **謝辞:** 指導・協力支援への謝意のほか、助成を受けた事実、学会発表の記録も記載する。
 - 7) **図 (写真)・表:** 図表およびその説明は、和英論文とも英語表記とする。本文出現順に図表番号を記載し、挿入箇所を本文右余白部に明示する。図はそのまま印刷できる明瞭なものとし、装飾 (立体など) しない。図の表題と説明は別紙に一括する。カラー印刷希望の場合はその旨記載する。表は横線のみで構成し、表題・説明を含めたものとする。既刊の図表を転載・引用する場合は、必ず著作権所有者の転載許可を得た上で出典を明示して使用する。
 - 8) **文献:** 本文引用順に文献番号を付け、本文引用部分に肩書きする。2 つ以上の引用は「[1]~5)」「[1] 3) 6)」と記載する。本文最後に文献番号順に配列したリストを記載する。著者は 3 名まで記載し、残りは「ほか」「et al」とする。外国人名は姓名の順とする。雑誌名の省略は医学中央雑誌および Medline に従う。
[雑誌の記載例]
 - 1) 川村雅枝, 重本六男, 森吉百合子ほか: ラット cysteamine 十二指腸潰瘍の発生機序について. 東女医大誌 56: 668-676, 1986
 - 2) Quimby GF, Bonnice CA, Burnstein SH et al: Active smoking depresses prostaglandine synthesis in human-gastric mucosa. Ann Intern Med 104: 616-619, 1986
 - 3) Jurgens HA, Johnson RW: Dysregulated neuronal-microglial cross-talk during aging, stress and inflammation. Exp Neurol 2010, doi: 10.1016/j.expneurol.2010.11.014, Published online (accessed on Aug 28, 2010)

〔図書の記載例〕

- 1) **城所良明**：神経筋接合の形成。「筋発生の細胞生物学」(小沢英二郎, 嶋田 裕, 真崎知生編), pp259-282, 学会出版センター, 東京 (1983)
- 2) **Kahn CR, Roth J**: Insulin receptors in disease states. *In* Hormone-Receptor Interaction (Levy GS ed), pp1-29, Marcel Dekker, New York (1981)
- 3) **Bargman JM, Skorecki K**: Part 13. Disorders of the Kidney and Urinary Tract. Chapter 280. Chronic Kidney Disease. *In* Harrison's Online. The McGraw-Hill Companies, New York. <http://www.accessmedicine.com/content.aspx?aid=9130075> (accessed on Sep 5, 2011)
- 9) **要旨**：和英論文とも，和文要旨（本文 800 文字程度），英文要旨（本文 200 words 程度，英単語 5 個以内のキーワード）を添える。
- 10) **英文校閲**：英文論文は投稿時原稿と査読後修正原稿の①本文，②英文要旨，③図表，④図表の説明について，和文論文は査読受理後原稿の①英文要旨，②図表，③図表の説明について，英文校閲を受けその証明書を提出する。但し，査読者より指摘があった場合はその時点で英文校閲を受けその証明書を提出する。
14. **連絡先**：投稿，編集，印刷に関する問い合わせ等はすべて下記宛とする。
〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1
東京女子医科大学 中央校舎 3 階 学会室
Tel・代表：03-3353-8111（内線 22314）
Tel & Fax：03-5269-7403（直通）
E-mail address：gakkai.bi@twmu.ac.jp
URL：http://www.twmu.ac.jp/gakkai/

東京女子医科大学雑誌～チェックシート～

平成28年7月

以下の□にすべてチェックが入った状態で投稿してください

提出書類

- 紙原稿3部
- 原稿の電子データ
 - 表紙・本文（倫理審査、利益相反を含む）を「本文」ファイルとする
 - 図・写真の説明を「図説」ファイルとする
 - 図・写真または表を「図」「表」ファイルとする
 - 英文要旨を「英文要旨」ファイルとする
 - 和文要旨を「和文要旨」ファイルとする
- 投稿申込書
- <原著の場合>
 - 教授・講座主任または指導者の署名
- <英文論文の場合>
 - 英文校閲証明書
- チェックシート（本紙）

原稿書式

- A4判用紙
- 上下左右余白・行間を適宜とる
- 本文1頁目に文字数×行数を記す
- 原稿下部中央にページ番号を付す
- 小見出しの番号は、1. →1) →(1) →①の順で使用する
- 略称を用いる場合、初出時に定義する
- 修飾文字（イタリック、上付き、下付き、プライム等）を指定する
- 原稿枚数の上限内である
- <原著と総説の場合>
 - 刷上り頁数（図表含む）10頁
 - 図表 10点
- <報告の場合>
 - 刷上り頁数（図表含む）6頁
 - 図表 5～6点

表紙

- A4判用紙1枚におさめる
- <和文論文の場合>
 - 原稿の種類 ※原著／総説／報告など
 - 和文タイトル
 - 和文所属
 - 著者氏名（フリガナ）
 - 英文タイトル
 - ローマ字著者氏名 ※名・姓の順、姓は大文字
 - 英文所属
 - 著者連絡先
- <英文論文の場合>
 - 原稿の種類 ※Original／Review／Reportなど
 - 英文タイトル
 - ローマ字著者氏名 ※名・姓の順、姓は大文字
 - 英文所属
 - 著者連絡先

本文構成

- <総説の場合>
 - はじめに Introduction
 - おわりに Conclusion
 - 謝辞 Acknowledgments
 - 利益相反
 - 文献 References
- <原著の場合>
 - 緒言 Introduction
 - 対象および方法 Materials and Methods
 - 結果 Results
 - 考察 Discussion
 - 結論 Conclusion
 - 謝辞 Acknowledgments
 - 利益相反
 - 文献 References
- <報告の場合>
 - 緒言 Introduction
 - 症例 Case Report
 - 患者 Patient
 - 主訴 Chief complaint
 - 既往歴 History of past illness
 - 現病歴 History of present illness
 - 血液生化学検査 Blood gases など
 - 結果 Results
 - 考察 Discussion
 - 結論 Conclusion
 - 謝辞 Acknowledgments
 - 利益相反
 - 文献 References

（裏へ）

倫理審査

承認済 ※該当する場合は承認を得たことを“対象および方法”に記載してください

非該当

利益相反 ※文献の前に記載してください

<ない場合>

「開示すべき利益相反状態はない。」「The author(s) indicated no conflicts of interest.」などと記載する

<ある場合>

「この研究の〇%は×××からの支援により行った。」「About 〇% of this study was supported by ×××.」などと記載する

文献

文献番号は本文引用順とする

本文引用部分に肩書きする

著者名は姓・名順とする

省略を表すピリオドは不要

雑誌名は略記する

終頁は省略しない (例) 正: 234-236 誤: 234-6

その他、記述法が正しい

<雑誌の場合>

1) 著者名3名+ほか または et al : 論文のタイトル. 雑誌名の略記 巻(号): 始頁-終頁, 発行年

<著書(和文)の場合>

2) 著者名3名+ほか: 引用章タイトル. 「書名」(編集・監修者名), pp 始頁-終頁, 出版社, 出版地(発行年)

<著書(英文)の場合>

3) 著者名3名+et al : 引用章タイトル. In 書名(編集・監修者名 ed), pp 始頁-終頁, 出版社, 出版地(発行年)

図(写真)の説明

タイトルがある

説明がある

タイトルおよび説明を英語表記とする

図(写真)

図・写真中の単語を英語表記とする

文字サイズ・フォントを考慮して作成する

本文出現順に図番号を明記する ※写真は図とする

図表挿入箇所を本文右余白に記す

希望する印刷法(カラーまたはモノクロ)を明記する

手札サイズの写真はA4判用紙に貼る(四隅のみ糊付け)

同じ図番号の場合は出来るだけ同じ用紙におさめる

カラー印刷希望の場合は出来るだけ1頁におさめる ※出来上り1頁60,000円

<転載の場合>

転載許諾を得る ※転載許諾書をご提出ください

出典元情報を明記する

表

タイトルがある

説明がある

表中の単語、タイトルおよび説明を英語表記とする

図表挿入箇所を本文右余白に記す

横線のみで構成する

英文要旨

A4判用紙1枚におさめる

英文タイトル

ローマ字著者氏名 ※名・姓の順, 姓は大文字

英文所属

本文200 words程度

Key Words (英単語5個以内)

和文要旨

A4判用紙1枚におさめる

和文タイトル

和文所属

著者氏名(フリガナ)

本文800文字程度

署名

投稿申込書

平成 年 月 日

東京女子医科大学学会 編集担当幹事長 殿

下記論文を貴誌に投稿いたします。この論文は他誌に未発表であり、また投稿中でもありません。採用された場合には、この論文の著作権を東京女子医科大学学会に委譲すること、当学会と契約を交わした Web サイトへ全文または要旨を収載することに同意いたします。

なお、本論文の内容に関しては、著者（ら）が一切の責任を負います。

署名	
----	--

論文表題	
------	--

署名	著者全員の署名が必要です。欄が足りない場合はコピーして2枚提出して下さい。			
①	年 月 日	②	年 月 日	
③	年 月 日	④	年 月 日	
⑤	年 月 日	⑥	年 月 日	

原稿種類	<input type="checkbox"/> に✓または×を入れて下さい。
	<input type="checkbox"/> 原著 (<input type="checkbox"/> 学位申請論文) <input type="checkbox"/> 総説 <input type="checkbox"/> 報告 <input type="checkbox"/> ほか ()

推薦	原著・学位申請論文の場合、教授・講座主任または指導者の署名が必要です。		
署名		所属	

連絡先	<input type="checkbox"/> 医局・教室 <input type="checkbox"/> 出張先 <input type="checkbox"/> 自宅			
氏名		所属		
住所	〒			
Tel		Fax		E-mail Address

請求書宛名	<input type="checkbox"/> 筆頭著者名 <input type="checkbox"/> 医局・教室名 <input type="checkbox"/> ほか ()		
-------	--	--	--

請求書送付先	<input type="checkbox"/> 医局・教室 <input type="checkbox"/> 出張先 <input type="checkbox"/> 自宅		
氏名		所属	
住所	〒		

利益相反	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
IR*登録	<input type="checkbox"/> 同意しない

※IRとは「東京女子医科大学学術リポジトリ Twinkle」
(<http://ir.twmu.ac.jp/dspace/>) のこと。

IRには全文を登録します。

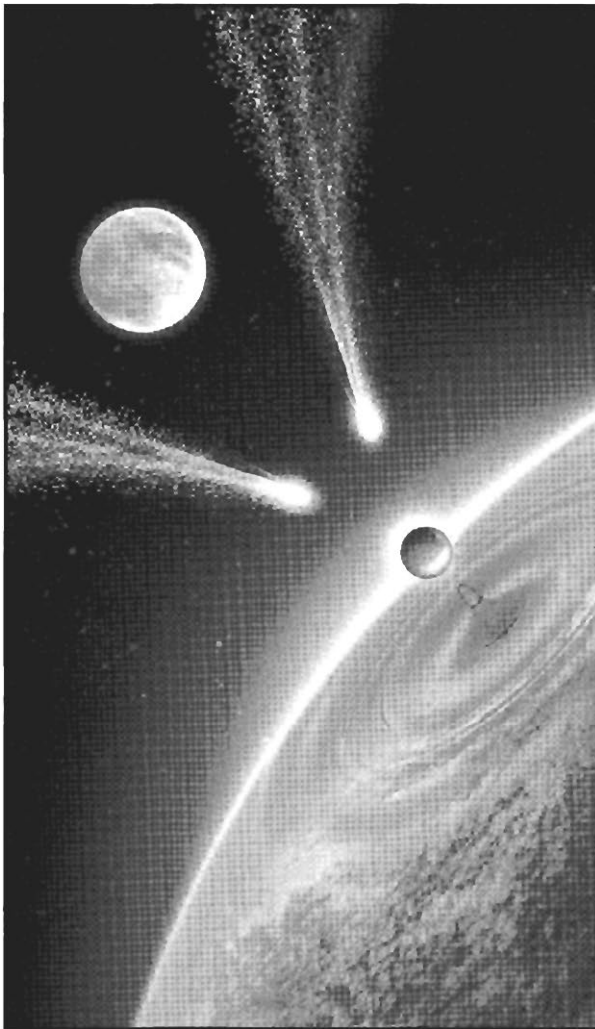
のない場合は同意していただいたものといたします。

学会室記入欄：

論文受付日 年 月 日

論文受理日 年 月 日

受付番号



緑内障・高眼圧症治療剤 処方箋医薬品*

ミケルナ® 配合点眼液

Mikeluna® combination ophthalmic solution 薬価基準収載

カルテオロール塩酸塩・ラタノプロスト配合点眼液

* 注意—医師等の処方箋により使用すること

◇効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。



製造販売元

大塚製薬株式会社

東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先

大塚製薬株式会社 医薬情報センター

〒108-8242 東京都港区港南2-16-4

品川グランドセントラルタワー



提携

千寿製薬株式会社

大阪市中央区平野町2-5-8

資料請求先

千寿製薬株式会社 カスタマーサポート室

〒541-0046 大阪市中央区平野町2-5-8

〈'17.01作成〉

BRONUCK

非ステロイド性抗炎症点眼剤

ブロナック®点眼液0.1%

BRONUCK® OPTHALMIC SOLUTION 0.1%

ブロムフェナクナトリウム水和物点眼液

薬価基準収載

※効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

資料請求先: 千寿製薬(株)カスタマーサポート室

製造販売元 千寿製薬株式会社
大阪市中央区平野町二丁目5番8号

販売 武田薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町四丁目1番1号

02591

2015年6月作成

“知と創造”で医療現場の未来を切り開く Next Innovation

「開業支援」・「院内業務受託」・「医療機器販売」・「正規ディーラー」の4つの主要業務を通じて病院・クリニック様の充実した医療環境構築をお手伝いさせていただきます。



crocsスペシャリスト・ベントは、側面の通気孔により十分な通気性を保持しつつも、縁取りが施されているため降りかかる水滴や薬品などの進入を防ぎます。衝撃吸収素材「クロスライト」の優れた履き心地が疲労を軽減します。



cciluナーススニーカーは、チル・ジャパンと開発した当社オリジナルのナーススニーカーです。軽量でメッシュによる通気性もあるので快適な履き心地です。また、静電気放出機能もあります。



アイメットは、頭蓋骨変形の乳幼児のために開発された頭蓋骨矯正ヘルメットです。東京女子医科大学の専門脳神経外科の医師による診療体制においてオーダーメイドで製作し治療を行うことができます。



株式会社 サンユーメディカル

SANYU MEDICAL

〒113-0021 東京都文京区本駒込5-5-9

TEL : 03-3947-4430 (代) / FAX : 03-3947-4736



学術に関することは、お任せください。

わたしたちは60年前より学協会様とともに学術に携わってきました。

学術誌の制作・印刷から始まり、学協会様のニーズとともにサービスの幅を広げ、時代とともに成長し、日本医師会雑誌、日本内科学会雑誌を始め60以上もの学術ジャーナル出版のお手伝いをさせていただいているのは、誇りでもあり自信でもあります。また、情報発信のサポートとして行なっているホームページの制作・運営サービスも120サイトを超え、ご好評を頂いています。お客様の声から生まれた数多くのサービス、そこから得たノウハウは、きっとみなさまのお役にも立てるはずです。

学術ジャーナル

- 編集事務支援 (オンライン投稿・査読システム)
- 各種オンラインジャーナルへの公開対応
- 電子書籍サービス ● XML・ePUB作成
- 印刷・少部数印刷対応
- 制作・装丁・レイアウトデザイン

学術集会・イベント

- 学術集会・イベント運営サポート
(庶務・財務・広報・演題登録業務、当日運営サポート)
- 抄録データ管理・情報処理・編集
- プログラム集・抄録集制作・印刷
- 各種デザイン
(ロゴ、ポスター、ホームページ、印刷物全般、ノベルティ他)
- 学術集会用演題検索システム (Web・アプリ)

学会ホームページ

- 企画・設計 ● デザイン・制作
- 更新・運営管理 ● サーバーホスティング
- メール配信 ● Webアプリ・システム開発

学会事務支援

- 会員管理 ● 会費管理 ● 庶務業務 ● 会計業務
- 資格認定試験運営 ● アンケート集計・管理

オンライン投稿・査読システム



オンライン投稿・査読システム

世界6,000誌以上のジャーナルで採用されているThomson Reuters社の国内代理店です。


電子書籍サービス



学術専門 電子書籍サービス
Kyorinsha Academic Library

学会誌やガイドライン等、学術研究に特化した「学術専門の電子書籍サービス」です。

会員管理システム



学協会様向け 会員管理システム
カムシス 無償版

学協会サポートで積み上げてきたノウハウを詰め込んだ会員管理システムの無償版です。

演題検索システム



学術集会用演題検索システム
コンナビ
Kyorinsha Congress Navigation

PC・スマートフォンで、演題・セッションの検索や、参加プログラムの登録ができるサービスです。

オンラインPDF校正システム



学術ジャーナル出版に最適
オンラインPDF校正 + 進捗管理システム
Kyorinsha Online Proof System

コスト削減、スピードアップ...、学術ジャーナルならではの「著者校正」に強いサービスです。

オンラインストア



学術に関わる道具いろいろ

学術に関わる書籍やアイテムを、インターネットを介して販売するオンラインストアです。

